

日刊メタルレポート

発行所

株式会社 日刊金属新聞社

本社 大阪市城東区蒲生 1-3-7
電話 (06) 6932-5443 代表
購読料 半力年 44,100 円(前納) 3カ月 22,050 円

カドミレス 黄銅棒

RoHS 指令対応
(カドミ75PPM以下)

サイズ
丸棒 4.5~60mm
六角棒 5~40mm

常時豊富に在庫
その他のサイズも対応
可能、お任せ下さい!

株式会社 三木商会
東大阪営業所

〒578-0921
大阪府東大阪市水走 3丁目5-10
TEL 072-962-8000
FAX 072-962-8666

アルミ スクワップが大幅増加
輸入はいずれもマイナスに

橋本金属
アルミ橋本健一郎氏レポート②

【概況】三月前半はECBドラギ総裁の「ユーロ圏は二〇一三年後半には景気回復に向かう」とのコメントやNYダウの最高値更新、さらに中国国家備蓄局がアルミ三〇万t、亜鉛三万tを買い上げるなどのプラス材料もあったが、一月のユーロ圏工業生産指数の悪化、全人代をひかえる中、中国当局が不動産価格抑制策を発表したこと、中国鉱工業生産が九・九%増、小売売上高が一・三%増と、ともに予測を下回ったことを嫌気し、LMEアルミ相場は二、一三ドル(現物後場買い)と前月最終価格から約三八ドル下落しての前半締めとなった。

後半は注目のキプロス問題がEUとの金融支援合意出来た事、中国HSBCのPMI指数(中小企業中心)が五一・七と予測の五〇・七を上回ったことなどの好材料もあったが、キプロス金融支援条件の預金課税が今後の欧州懸念の支援モデルになるのでは?との不安感や、ユーロ圏総合景気指数の悪化、独製造業PMI指数の悪化、イタリア政局不安の台頭から、四月三日現在でLMEアルミ相場(現物後場)は一、八四六ドルと八五ドル下落してのスタートとなった。

■前月の経済指標

◆自動車生産台数
日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比一五・一%減の八〇万八、一九四台であった。

◆自動車販売台数
日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比一五・六%減の四二万〇、〇六九台。
(面へ続く)

チリで港湾ストが拡大!

連日約九千トンの銅が出荷不能

チリのソルミニヤク鉱業相はこの程、記者団に対し、同国では港湾ストが拡大し、連日約九、〇〇〇トンの銅が港から出荷不能の状態にあると明らかにした。状況が悪化した場合、一部の精錬業者が稼働停止する必要があるという。鉱物資源豊富なチリ北部メヒジヨネス市のアンガモス港では、昼の三〇分間の休憩時間を求め、約三週間前にスト入りした。それ以降、他の港も連携してストに参加したため、金属、果物、木材輸出にも影響が及んでいる。チリ政府は、早急なストの解決を求めているが、その時期は依然として不透明な情勢。

世界産銅大手のチリ銅公団(コデルコ)によると、輸出入の約五億ドルに相当する六万トン近い銅の出荷が停止されている。コデルコも、今月は同社操業の全鉱山地域で二四時間の労働ストに直面する可能性があるという。

アルミ原料需給にはタイト感が

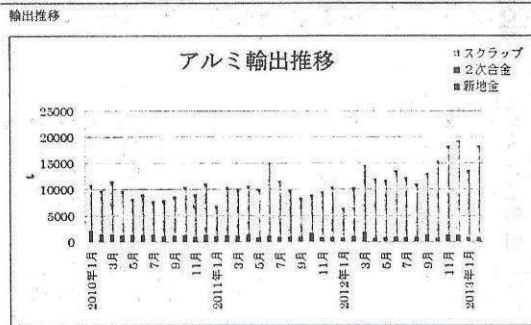
自動車統計はなお冴えないが

◆(二面より続く)
 ◆新設住宅着工戸数
 国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比三割増の六万八、九六九戸であった。

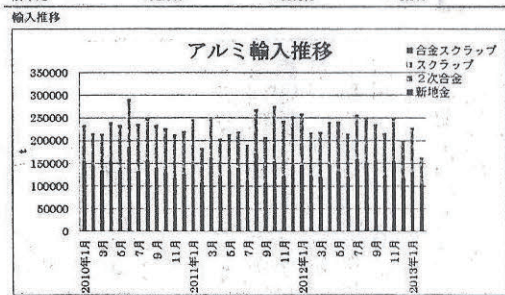
◆貿易関連指標

財務省貿易統計によれば、輸出はアルミ新地金が前年比六五・八%減の五一t、二次合金が一四・五%減の七五一t、スクラップが八七・六%増の一七、五六五t。

輸出	12月	1月	2月
新地金	142 t	124 t	51 t
前年比	+12.7%	+158%	-65.8%
二次合金	1193 t	743 t	751 t
前年比	+61.9%	+2.1%	-14.5%
スクラップ	18133 t	12770 t	17565 t
前年比	+87.3%	+123.4%	+87.6%



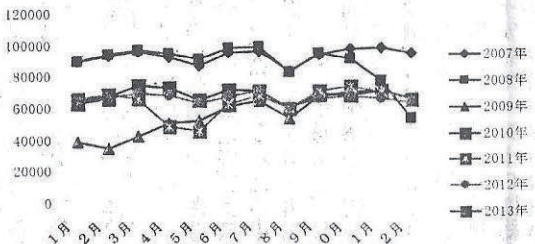
輸入	12月	1月	2月
新地金	11万5743 t	13万1664 t	10万3596 t
前年比	-21%	-9.2%	-16.5%
二次合金	8万0924 t	8万1268 t	5万5269 t
前年比	-19.6%	-16%	-38.3%
スクラップ	676 t	1151 t	723 t
前年比	-11.9%	+86.5%	-20.7%
合金スクラップ	2302 t	3298 t	2965 t
前年比	-52.5%	-43.4%	-3.9%



輸入は新地金が前年比一六・五%減の一〇万三、五九六t、二次合金が三八・三%減の五万五、二六九t、スクラップが二〇・七%減の七二三t、合金スクラップは三・九%減の二、九六五t。

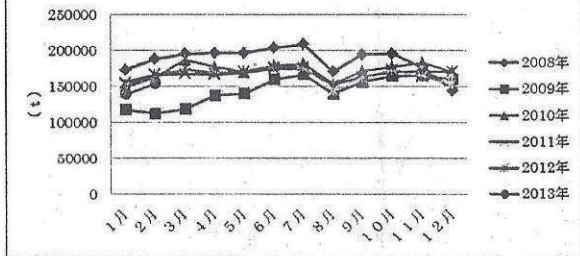
日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前年比〇・八%減の六万五、六一八tであった。(六面に続く)

アルミ2次合金等生産実績



出典 日本アルミニウム合金協会

アルミ板類・押出生産合計推移



出典 日本アルミニウム協会

【前月の国内指標】
 日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比七・二%減の一五万三、七一一t。

(二面より続く)

【見通し】

三月は、欧州の小国、キプロスシヨック(債務危機)に揺れた一カ月間となった。

EUとの支援条件、預金課税の中身について議会で否決。その後、ロシアに救済を求めると一進一退するも結局、株主の一部負担や高額預金者への課税を条件にEUと合意。ただ、株主負担や高額預金者負担が今後の銀行救済モデルのデフォルトになるのではとの危惧が台頭。今後の動向に注目。

自動車生産は前年比一五・一%減の二桁悪化の六カ月連続マイナス、販売の方もほぼ前月から減少幅悪化の一五・六%減とエコカー減税終了の反動もあるがまだまだ減少基調。

住宅関連は先月に続き六カ月連続増加の前年比三%増(季節調整済)前月比九・四%増の六万八、九六九戸。復興需要や消費税アップ前の駆け込み需要など今後の動向に注目。自動車関連のアルミ二次合金生産は引き続き前年比〇・八%減と六カ月連続の減少、下げ幅は縮小した。

前月に続き大幅円安に伴う割高感からの国内塊回帰から需要増で減少幅縮小との見解。その他、圧延・押出品生産数は前年比七・二%減と再び悪化。

圧延に関しては自動車向けが一四・五%減、押出に関しては自動車向けが一・二%減、建設が二〇・七%減と悪化。

輸出は新地金が前年比六五・八%減の五一t、二次合金が一四・五%減の七五・一t、スクラップが八七・六%増の一七・七、五五五t。前月に続き大幅円安や輸出が好調な韓国への輸出増との見解。

輸入は新地金が前年比一六・五%減の一〇万三、五九六t、二次合金は三八・三%減の五万五、二六九t、スクラップは二〇・七%減の七三・三t、合金スクラップは三・九%減の二、九六五t。

新地金は円安からの割高感のため輸入塊は減少、スクラップは輸入塊の割高感から一部、安いスクラップへ原料シフトしたものの依然として韓国への輸出が好調なことから輸出増加との見解。

原料需給は供給不足。

いよいよ新年度入りし、アベノミクスによる大型受注が入る可能性や先月に続き新設住宅着工数が前年比三%増と六カ月連続増加、回復の兆しもある。また最大需要家の自動車メーカーも、円安からの国内塊への回帰が起ころっており今後は増税前の駆け込み需要に対応するため、国内二次合金需要が増加するためスクラップ需要も増加するのでは。

L M E 非鉄在庫 (4月4日発表分)

	入庫	出庫	4月3日 現在	増減
銅	8,300	1,450	579,175	+ 6,850
{ G A W	0	0	0	± 0
{ G A C	8,300	1,450	579,175	+ 6,850
すず	55	70	14,485	- 15
鉛	0	525	260,900	- 525
亜鉛 S H G	0	5,300	1,156,725	- 5,300
アルミ	5,625	10,900	5,206,800	- 5,275
〃 二次合金	0	0	75,420	± 0
ニッケル	48	144	165,942	- 96
アルミ二次(NASAA)	0	140	142,580	- 140

(単位: トン)

L M E 非鉄在庫 (4月5日発表分)

	入庫	出庫	4月4日 現在	増減
銅	925	500	579,600	+ 425
{ G A W	0	0	0	± 0
{ G A C	925	500	579,600	+ 425
すず	0	85	14,400	- 85
鉛	125	625	260,400	- 500
亜鉛 S H G	2,175	4,400	1,154,500	- 2,225
アルミ	15,000	9,000	5,212,800	+ 6,000
〃 二次合金	0	100	75,320	- 100
ニッケル	510	168	166,284	+ 342
アルミ二次(NASAA)	0	160	142,420	- 160

(単位: トン)

LME価格に関して新規材料としてキプロス債務問題が台頭、規模的には欧州総GDPの〇・二%と影響は少ないが、EUとの支援合意内容の預金課税について今後の救済モデルになるのではとの先行き不安もある。また過剰流動性資金が現在は株、国債、通貨に流れており、コモディティ(商品)への流入がみられないことから、三月最高値付近の上値は二、〇〇〇ドル。
下値はNYダウの最高値更新や日経の高値更新に湧いた先月であったが、結局アルミを含む金属は今一歩だったことによる狼狽売りから一段安の一、八〇〇ドル。
スクラップ価格についてはLME価格の下落を受けて多少調整が進み、三月後半価格から、据え置きもしくは五円程度の値上げがあるとの予測。